

これからの男の力、女の力 —身体の根源から考える—

江戸川大学 社会学部人間心理学科
平山満紀(社会学、身体論)

子ども・若者達の身体

生命力の衰退 生命維持機能の低下

- **低体温** 朝35度台 5歳14.4% 中学3年16.8%

覇気がない、集中力がなく、忍耐力がない

- **体温調整機能の低下** 汗腺の数の減少 短時間に1.5~2度上昇 カツとなる、そわそわする、気分が悪くなる

- **呼吸が浅い**

- **体力、運動能力低下** この20年間

- **手の機能が衰える** 脳の発達も悪い

身体全体に力がない 前向きな意欲に乏しい。

発想がネガティブ。危険に囲まれると感じ萎縮。

現代の若者

生殖力の衰退

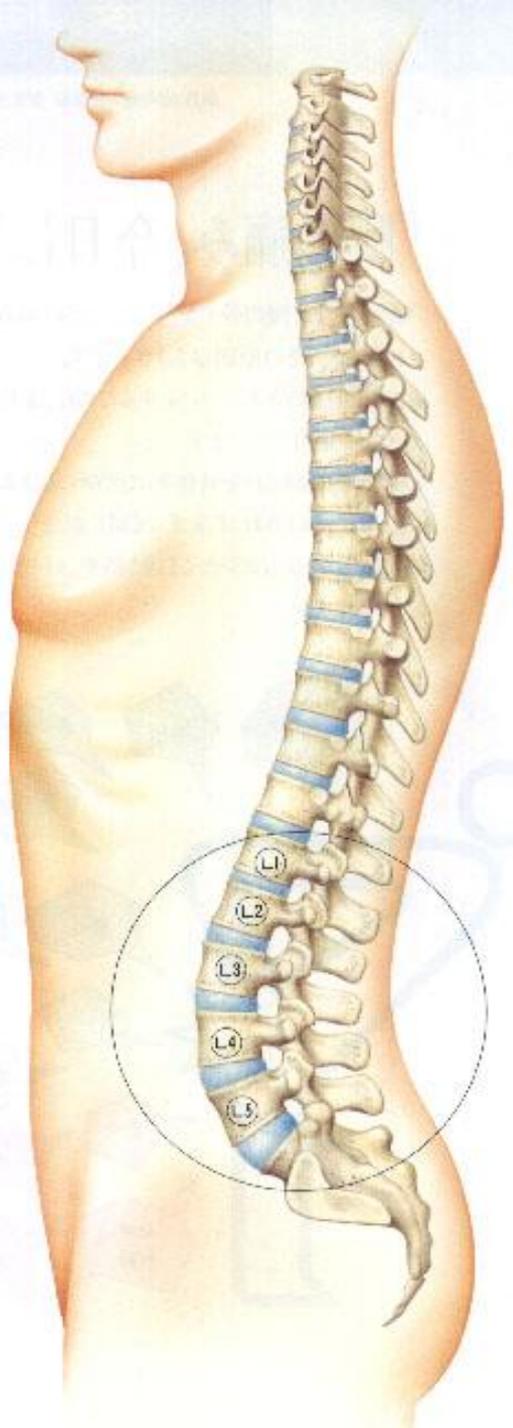
- 男女とも**不妊症の増加**。
- 男性 **成人年齢でも幼児体型の人増加**。第二次性徴が完遂していない。脊椎のS字湾曲が未形成。腰が未発達で性行動困難。
- **性情報の氾濫**。生身の人間に向かわない。
- **アニメ・ゲームのキャラクターに恋する若者も**。
- 女性の**生理不順、生理痛などの生殖機能のトラブル**非常に多い。一骨盤開閉がスムーズでない。
- 女性の**性感鈍化**。

原因：**情報化・IT化 目や脳神経の使い過ぎと緊張**



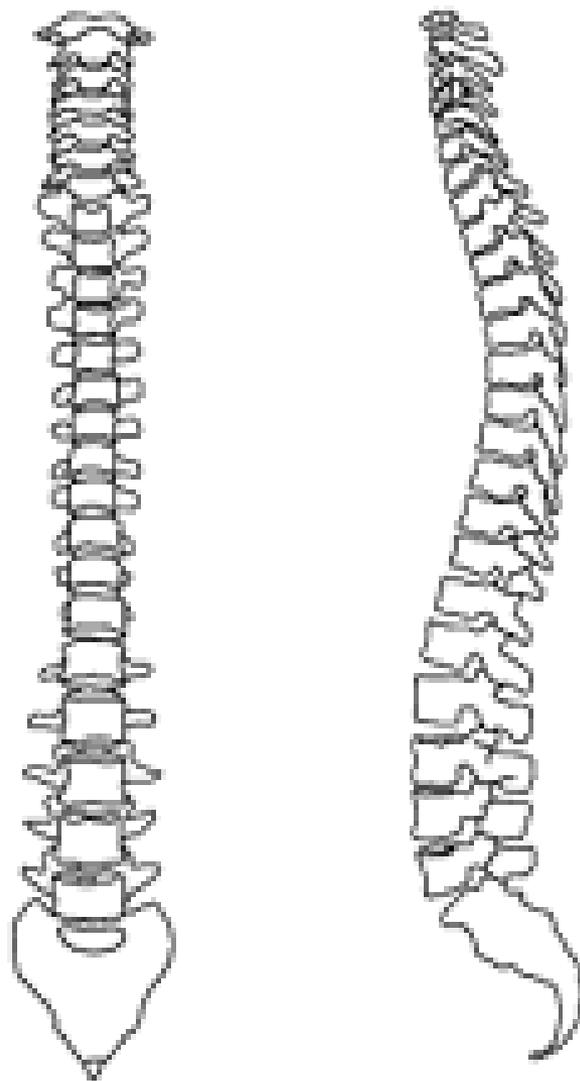


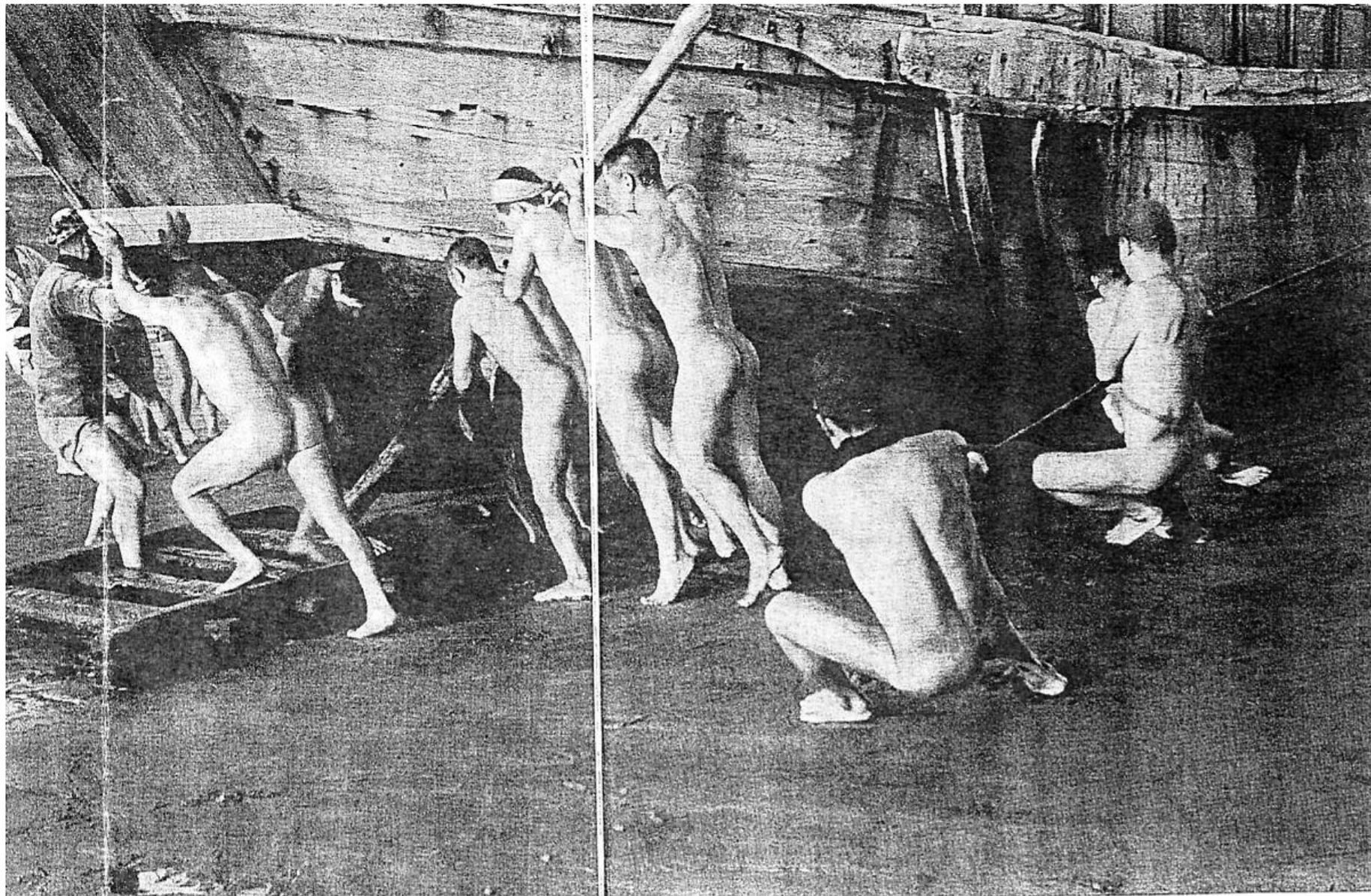
大人の脊椎



- 腰椎1 性的なことを考える機能
- 腰椎2 性的な行動を考える機能
- 腰椎3 性的な行動の機能
- 腰椎4 生殖器を働かせる機能
- 腰椎5 快感を得る機能

子どもの脊椎





昭和14年漁師達の身体

子ども・若者達

コミュニケーション不全

- 乳児 30人に一人はサイレントベビー。
笑わない、泣かない、声をださない、表情乏しい、指差さない、目を合わせない、言葉の遅れ
・・・テレビ・ビデオ育児が原因。育児の孤立化が背景に。
- 子ども・若者全般に、コミュニケーション経験、コミュニケーション力乏しい。身体感覚レベルでも。
- 「自分は孤独だ」(15歳)約30%(他国5%程度)
- 日本人のコミュニケーション＝「以心伝心で察しあう」単純な自己主張以上に 多様な他

大人を育てにくい母性社会日本

- ひきこもり80～120万人。
- ひきこもる本人は出たくても出られず悶々と自責。
- 仕事熱心な父、家庭中心の母 特に問題のない典型的な家庭。母は暴力被害にも。悲母観音の陰画
- 責任感、罪悪感の強すぎる母と、逃げ腰の父。閉じた家族が孤立。
- 思春期 母以外の人たちの関わりが必要。

男の力 女のをどう育てるか

- ・万人に・・・延髄に手当て法。
- ・胎児に・・・誕生前が非常に重要。手当て法。
- ・乳児に・・・母乳。 テレビ・ビデオ育児しない。
- ・子どもに・・・からだ遊びを存分に。 各地にプレーパーク(規制を取り払った冒険遊び場)や遊びのリーダーを。
- ・性を忌避させず、性を育てる教育を。
- ・身体コミュニケーションの体験を多く。
- ・思春期・・・できるだけ母以外の人に関わる。
- ・万人に・・・IT機器を使ってもよいが、目と脳神経の緊張をとってポカンとする時間を。

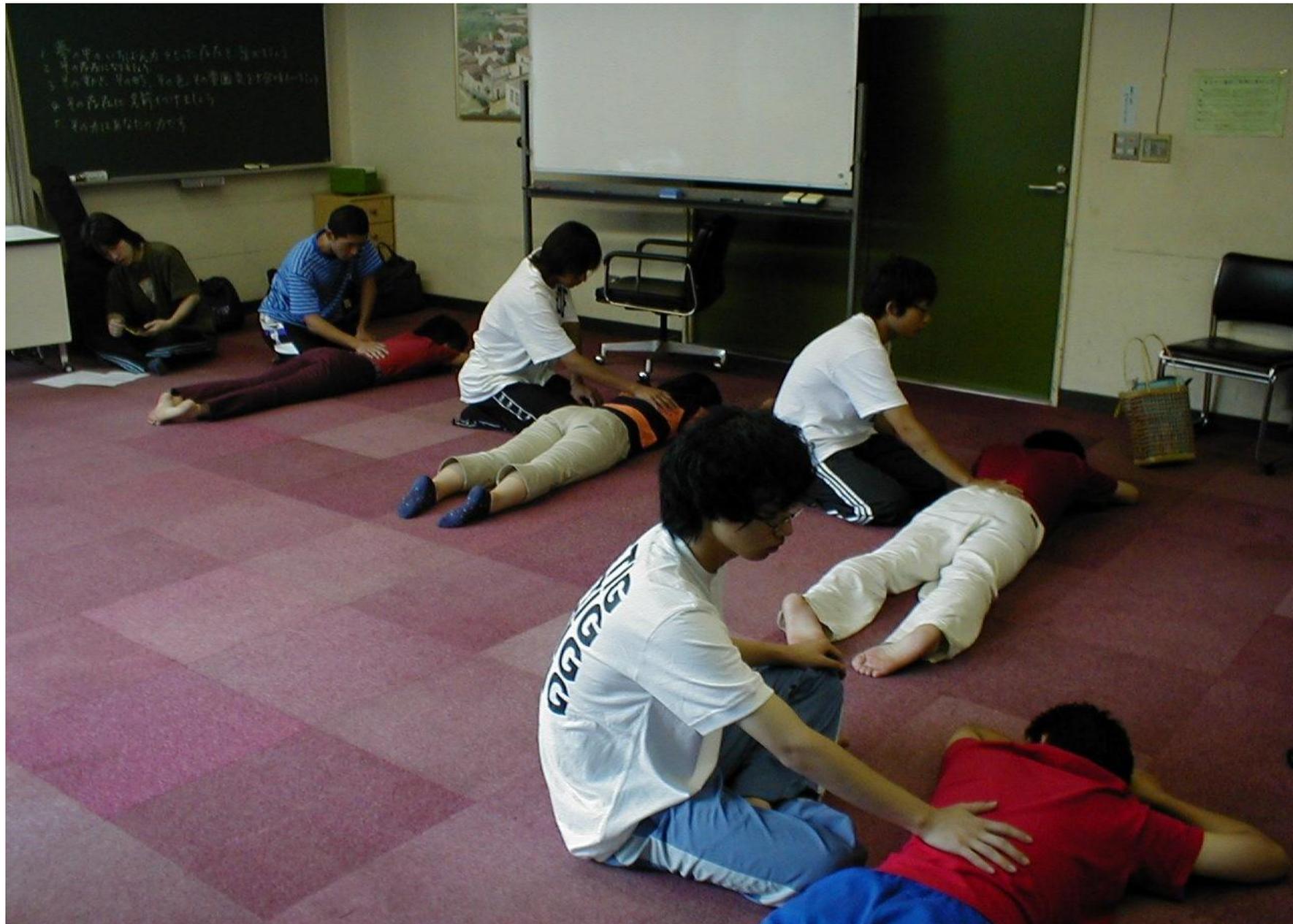


- 身体コミュニケーション実習（指先だけのコンタクト）





- 手当て法の実習





- ラテン系ペアダンス





- プレーパークの田植え



• プレーパークの畑



- 世田谷の常設プレーパーク



- プレーパーク 市民ボランティアで運営